

15. 温室ブドウのハダニ類の土着天敵に対する薬剤の影響（技術）

[要約]

温室ブドウに発生するハダニ類の主要な土着天敵であるハダニアザミウマとミヤコカブリダニに対して影響の小さい薬剤を選出した。

研究室名	病虫研究室	連絡先	0869-55-0543
------	-------	-----	--------------

[背景・ねらい]

温室ブドウに発生するハダニ類の主要な土着天敵であるハダニアザミウマとミヤコカブリダニについて、薬剤に対する影響を明らかにし、土着天敵を活用したハダニ類防除に資する。

[成果の概要・特徴]

1. ハダニアザミウマに対して、影響の小さい殺ダニ剤は 10 剤、殺虫剤はアプロード 1 剤のみであった。影響程度が大きかった薬剤のうち、殺虫剤のジェット V P、ディプテレックス、ダイアジノンに影響期間が 3～7 日と短かった。
2. ミヤコカブリダニに対して、影響の小さい殺ダニ剤は 5 剤、殺虫剤は 11 剤であった。
3. 殺菌剤は、両天敵に対していずれも影響が小さかった。

以上の結果、温室ブドウに発生するハダニ類の主要な土着天敵であるハダニアザミウマとミヤコカブリダニに対して影響の小さい薬剤を選出した。

[成果の活用面・留意点]

1. ハダニアザミウマは 7～8 月の盛夏期に、ミヤコカブリダニを含むカブリダニ類は 9～11 月の秋期に発生が多いので、これらの時期に影響の小さい薬剤を使用する。

[具体的データ]

表1. 温室ブドウに発生するハダニ類の土着天敵に対する薬剤の影響

	薬剤名	剤型	希釈倍数	影響程度 (影響期間)	
				ハダニアザミウマ	ミヤコカブリダニ
殺ダニ剤	ケルセン	水	1500	○	△
	ダニトロン	フ	1000	○	×
	アーデント	水	1000	× (28日以上)	△
	ニッソラン	水	2000	○	○
	サンマイト	水	1000	○	×
	ピラニカ	水	2000	○	×
	オサダン	水	1000	○	○
	ロディー	水	2000	× (28日以上)	○
	オマイト	水	1000	○	○
	コテツ	フ	2000	× (28日以上)	○
	コロマイト	水	2000	○	×
	テルスター	フ	4000	× (28日以上)	△
	バロック	フ	2000	○	×
	マイトコーネ	フ	1000	○	×
殺虫剤	スブラサイド	水	1500	× (28日以上)	○
	ディプテレックス	溶	1000	× (7日)	○
	アプロード	フ	1000	○	○
	アドマイヤー	水	1000	× (28日以上)	○
	モスピラン	水	2000	× (28日以上)	○
	オリオン	水	1000	× (28日以上)	△
	オルトラン	水	1000	× (28日以上)	×
	スカウト	フ	2000	× (28日以上)	○
	デナボン	水	800	× (28日以上)	×
	ダイアジノン	水	1500	× (7日)	○
	パダンSG	溶	1000	× (14日)	×
	アクタラ	溶	2000	× (28日以上)	○
	ダントツ	溶	2000	× (—)	○
	スタークル	溶	1000	× (28日以上)	○
	ジェットVP	煙	50g/150m ³	× (3日以内)	○
殺菌剤	アミスター10	フ	1000	○	○
	ストロビードライ	フ	2000	○	○
	トップジンM	水	1500	○	○
	ベンレート	水	2000	○	○
	トリフミン	水	2000	○	○
	マネージ	水	2000	○	○
	ポリベリン	水	1000	○	○
	ロブラール	水	1000	○	○
	ゲッター	水	1000	○	○
	フルピカ	フ	2000	○	○
	硫黄	粉	3 kg/10a	○	○

○:影響小 (生存率71%以上)、△:影響中 (21~70%)、×:影響大 (0~20%)

ハダニアザミウマは成虫及び幼虫の生存率で、ミヤコカブリダニは卵~成虫への発育率で判定した。

ハダニアザミウマ:2001年7月及び2002年5月、岡山市横井上より採集。

ミヤコカブリダニ:2001年11月、船穂町船穂より採集。

[その他]

試験研究課題:天敵を活用した温室ブドウのハダニ類防除技術の確立

予算区分:国補 (総合的病害虫管理推進事業)

研究期間:平成 11~15 年度

関連情報等:なし